

「CSR報告書2014」の発行にあたって



代表取締役社長

酒井健二

1881(明治14)年、当社の前身である「光明社」が設立され、これが日本の塗料工業の端緒となりました。文明がまさに開花せんとする明治期の日本にあつて、近代工業が急成長するなか、さびなどの腐食から船舶や建物、橋梁など社会のインフラストラクチャーを守ると同時に、生活に彩(いろどり)を加える塗料の需要は飛躍的に拡大し、その用途も拡大の一途をたどりました。

塗料は、被塗物の「保護」と「美観」の観点から、目立たないながらもわたくしたちの生活を支える、社会性の高い製品です。当社は、このような社会性の高い製品を、幅広い分野に提供する総合塗料メーカーとして130余年、日本の化学工業界全体からみても、長い歴史を重ねてまいりました。これもひとえに当社をご支援くださるすべての皆さまのおかげと、衷心より厚くお礼申し上げます。

創業以来、時代や社会の変化に対応し、また、さまざまな危機を乗り越えてまいりました当社には、「社業を通じて社会公共の福祉に貢献する」というゆるぎない経営理念があります。この理念のもとになりましたのは、1924(大正13)年に制定された経営方針であります。先人は

大正期にあつて、「経営は公器である」と明言し、「取引先との共存共栄」を掲げておりました。CSRという概念が確立される遥か以前から、当社は「企業の社会的責任」を経営の柱としてまいりました。

当社は本年2014年10月1日に持株会社体制に移行するとともに、アジア合併事業の50年来のパートナーであるWuthelam Holdingsとの協業関係をさらに深化させることにより、世界のトップ塗料メーカーと肩を並べるべく、成長を希求してまいります。わたくしどもを取り巻く環境がいかにドラスティックに変わろうとも、当社のすべての活動の原点は「社業を通じて社会公共の福祉に貢献する」という経営理念にあることは、いささかもゆるぎません。本書が、わたくしども日本ペイントグループのCSR活動を知っていただく一助になりましたら幸甚です。

わが国の塗料工業のパイオニアであるという自負と自覚を持ち、業界のリーディングカンパニーとして、また色彩産業の担い手として、脈々と引き継がれてまいりました理念を経営の中心に据え、今後も社会から存在を認められ、信頼される企業として、持続可能な成長を目指し、これからも歴史を重ねてまいります。